

製品名: Siah-1/2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17883**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	SIAH1/SIAH2
別名	SIAH1; HUMSIAH; E3 ubiquitin-protein ligase SIAH1; Seven in absentia homolog 1; Siah-1; Siah-1a; SIAH2; E3 ubiquitin-protein ligase SIAH2; Seven in absentia homolog 2; Siah-2; hSiah2
遺伝子 ID	6477/6478
SwissProt ID	Q8IUQ4/O43255
免疫原	抗血清はヒト SIAH1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 181-230

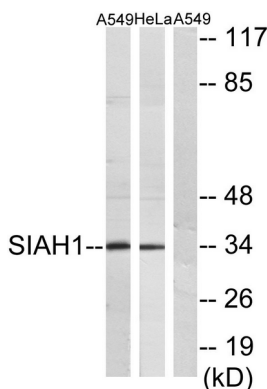
背景

この遺伝子は、7つの不在時ホモログ (SIAH) ファミリーのメンバーであるタンパク質をコードしています。このタンパク質は E3 リガーゼであり、特定のタンパク質のユビキチン化およびプロテアソームを介した分解に関与しています。このユビキチンリガーゼの活性は、特定のパーキンソン病の発症、低酸素に対する細胞応答の調節、そしてアポトーシス誘導に関与していることが示唆されています。選択的スプライシングによって複数の転写産物バリエーションが生成され、その中には異なるアイソフォームをコードするものもあれば、まだ十分に特徴付けられていないものもあります。[RefSeq 提供、2008年7月],domain:RING 型ジンクフィンガードメインは、ユビキチンリガーゼの活性に必須です。domain:SBD ドメイン (基質結合ドメイン) は、ホモ二量体形成および基質タンパク質との相互作用を媒介します。TRAF ファミリーに関連しています。機能: 標的タンパク質のユビキチン化とそれに続くプロテアソーム分解を媒介する E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼ。E3 ユビキチンリガーゼは、E2 ユビキチン結合酵素からチオエステルの形でユビキチンを受け取り、標的基質に直接転移します。E3 ユビキチンリガーゼ活性は、基質への直接結合、またはより大きな E3 複合体の必須 RING ドメインサブユニットとして機能することで媒介されます。転写調節に関与するタンパク質 (MYB、POU2AF1、PML、RBBP8)、細胞表面受容体 (DCC)、細胞質シグナル伝達分子 (TIEG1、NUMB)、抗アポトーシスタンパク質 (BAG1)、微小管モータータンパク質 (KIF22)、ニューロンのシナプス小胞機能に関与するタンパク質 (SYP)、構造タンパク質 (CTNNB1)、SNCAIP など、多くの基質のユビキチン化を介した分解を引き起こします。これにより、アポトーシス、腫瘍抑制、細胞周期、軸索誘導、転写調節、精子形成、TNF- α シグナル伝達など、多くの細胞プロセスに関与します。SIAH2 と一部機能が重複しています。PEG3 と協力してアポトーシスを誘導します。誘導: TP53/p53 によって誘導される可能性があり、TP53 応答の調整に必要である可能性を示唆しています。ただし、in vivo でのこのような活性の関連性は不明であり、存在しない可能性があります。経路:タンパク質修飾、タンパク質ユビキチン化。類似性:SINA (Seven in Absentia) ファミリーに属します。類似性:1 つの RING 型ジンクフィンガーを含みます。類似性:1 つの SIAH 型ジンクフィンガーを含みます。細胞内局在:主に細胞質内。部分的に核内。サブユニット:ホモ二量体。グループ 1 グルタミン酸受容体 GRM1 および GRM5 と相互作用します。DAB1 と相互作用し、その活性を阻害する可能性があります。UBE2E2 と相互作用します。PEG3 と相互作用します (類似性による)。UBE2D1、SIAH1、CACYBP/SIP、SKP1、APC、および TBL1X で構成される大規模な E3 複合体の構成要素です。UBE2I と相互作用します。PEG10 と相互作用し、PEG10 の活性を阻害する可能性がある。KHDRBS3 と相互作用する。組織特異性: 低レベルで広く発現している。進行肝細胞癌では発現が低下する。

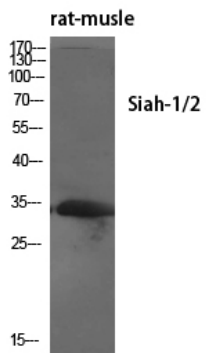
研究分野

p53;ユビキチンを介したタンパク質分解;WNT;WNT-T細胞

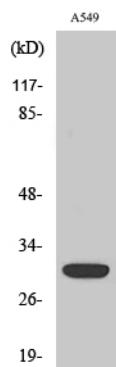
画像データ



SIAH1 抗体を用いた A549 細胞および HeLa 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Siah-1/2 ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



Siah-1/2 ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析